

## 第2回日口投資フォーラムにおける 山本経済産業副大臣ごあいさつ

### 1. はじめに

(ズドラーストブイチュエ(ロシア語で「こんにちは」の意))

ただいま御紹介にあずかりました経済産業副大臣の山本幸三でございます。フラトコフ首相をはじめ、各閣僚の方々、地方州政府の知事の方々及び、ロシアのビジネス界を代表する皆様の前で、発言の機会を頂きまして、誠に光栄に存じます。

本日ここに、第2回日口投資フォーラムを開催できますことを大変喜ばしく思います。これも、昨年サンクトペテルブルクで開催した第1回フォーラムが、日口合わせて約700名の参加者を得て、日口経済関係強化の一里塚となった証左です。本日のフォーラムが、この第1回を超える、内容の充実したフォーラムとなることを期待しています。

日口関係をさかのぼれば、約200年前に、東の端の日本から西の端のサンクトペテルブルクまで、遙か8000kmもの距離を往復した、大黒屋光太夫だいこくやこうだゆうが思い出されます。当時のロシア帝国に漂着した彼は、サンクトペテルブルクでエカテリー

ナ 2 世に謁見するなど、日本で初めてロシアを見て回り帰国した人です。この過程で様々なロシア人との出会いを通じて、新しい世界観を身につけ、当時鎖国中の日本に大きな影響をもたらしました。

現在は、このような想像を絶するほどの経験をしなくても、お互いの国を知ることができる時代です。しかし、本日の投資フォーラムのように、日口政財界を代表する方々が一同に会して、忌憚無く議論を行うことにより、新しい可能性を切り開く場は他にはありません。このフォーラムがお互いに日口関係者に大きな影響をもたらし、日口経済関係の更なる拡大、ひいては、日口間の信頼感向上の起爆剤になると確信しています。

本日は、日口経済の現状及び今後の関係強化に向けた取組について考えを述べさせていただきます。

## 2 . 近年の日口経済について

近年の日口貿易は急速に拡大しており、2005 年の貿易総額は 100 億ドルを突破し、3 年前から倍増の勢いです。また、モスクワ日本商工会の会員企業数は、現在約 150 社となり、これも 3 年前から倍増しています。こうした両国間における

経済関係拡大の大きな要因は、両国の着実な経済成長によるものです。

現在、我が国経済は長い停滞期をようやく克服し、「Japan is back」と呼ばれるほどになりました。こうした力強い我が国経済は、一方で、ロシアと同様に、継続的に人口が減少する状況に直面しています。こうした状況の下で国富の増大を図っていくためには、イノベーションが重要です。日本から新商品・新技術を世界に発信、提供し、世界レベルでのイノベーションを創出するため、経済産業省が各省をリードして、我が国の政策を総動員しています。

また、ロシア経済も原油高を背景としたエネルギー資源の輸出拡大により、力強い経済成長を実現しています。加えて、従来のエネルギー分野のみならず、消費財分野のビジネスに外国企業の関心が高まっています。こうした動きを加速するため、ロシア政府は、経済特区を指定し、税制上の優遇措置を講じ、外資を巻き込みつつハイテク産業の育成を図っていると伺っています。

### 3 . 更なる日口経済関係の強化に向けて

こうした力強く躍動する経済大国である日口それぞれの戦略的な取組を補完し、両国の有するポテンシャルを最大限実現していくため、日口両国は、お互いにもっと協力していくことができるのではないかと考えています。

そのため、本日、経済産業省と経済発展貿易省との間で、「貿易投資協力拡大プログラム」に署名します。このプログラムは、今後中期的に日口間の貿易・投資を顕著に増加させることを目標としています。この高い目標実現のため、プログラム内容は大変野心的なものとなっています。例えば、国際ルールに基づく貿易紛争解決への協力、知的財産権分野や中小企業分野での協力強化などです。もちろん、本日の日口投資フォーラムを通じた投資協力も重要な柱です。

こうした取組を通じて、お互いに一つ一つ信頼を積み上げていくことにより、より一層厚みのある経済関係を構築していくことができるでしょう。

### 4 . まとめ

最後に、日口間の経済関係を拡大・深化させていくためには、本日ここに集いました我々一人一人の努力が重要です。本日のフォーラムがそうした努力を加速する大きなきっかけ

けとなることを期待いたしまして、私のごあいさつとさせていただきます。

御静聴ありがとうございました。

( スパシーバ ( ロシア語で「ありがとう」の意 ) )